

## 女子栄養学園の誕生

# 1940

家庭食養研究会を始めた当初の会員は、創立者の勤め先の東京帝国大学医学部の医局員の家族や知人などであった。次第に研究会の充実した内容が人々に伝わり、入会者が増え、1937(昭和12)年、研究会を「栄養と料理学園」に名称変更した。さらに1940(昭和15)年に「女子栄養学園」と改称し、昇三が学園主、綾が学園長となって、本格的な栄養学教育を始めた。

1942(昭和17)年には駒込の現在の所在地を購入して、新校舎を建設、全国から生徒を集めた。しかし、1945(昭和20)年、学校の疎開が奨励されていたなか、学園は群馬県への疎開を準備していた矢先に、駒込校舎を空襲で焼失した。その後、疎開先で昇三が急逝し、綾は失意の中で終戦を迎え、幾多の困難を乗り越えながら授業を続けた。

1946(昭和21)年、帰京した綾は、戦前に香川研究所として使用していた駕籠町の焼け残った鉄筋ビルを修理して女子栄養学園を復活させ、1947(昭和22)年の栄養士法公布と同時に栄養士養成所の指定を受け、栄養士の養成を開始した。



1942(昭和17)年 駒込校舎実験室・調理室で



1942(昭和17)年 女子栄養学園卒業式 駒込校舎の庭で

## 女子栄養短期大学の開設

# 1950

1950(昭和25)年、短期大学制度の発足と同時に「女子栄養短期大学」を開設し、短期大学における栄養士教育を全国で初めて開始した。駒込の旧校舎の戦火の焼け跡に建設されたばかりの新校舎(木造)に、37名の学生を迎えて第1回目の入学式が行われた。

香川綾は、月刊誌『栄養と料理』1950(昭和25)年7月号の「新校舎の落成にあたり感謝に満ちて」という巻頭言の中で、栄養士が社会に出て指導するためには、資質を高め、また社会的地位も高くなければ教育的な指導が出来ない点を短期大学開設の理由にあげている。1956(昭和31)年には短期大学第二部(夜間部)を設け、広い分野の職業人にも夜学で栄養学を教育することができるようになった。



1954(昭和29)年頃の駒込校舎外観



1955(昭和30)年6月 短期大学2回生卒業後のクラス会